


<p>学校教育目標 自ら輝け 夢をつかめ 〈笑顔・感動 はつらつ植水〉</p>	<p>学校だより</p> <p>瑞穂</p> 	<p>令和2年度6月号 令和2年6月1日発行 さいたま市立植水中学校</p>
---	---	--

判断する力

校長 茂木 里仁

深緑の候、皆様にはご清祥のこととお喜び申し上げます。新型コロナウイルス拡散防止のための「緊急事態宣言」に伴い、学校は5月末まで臨時休業でしたが、保護者の皆様、生徒の皆さんいかがお過ごしでしょうか。臨時休業の中、本校では、さいたま市 Web 学習支援コンテンツや課題の取組状況、生活の仕方について、



3日に1回、生徒への電話連絡や家庭訪問、資料の配付や課題提出を（ラジオレター収録の様子）実施して、ご家庭での生活の様子や学習状況等を聴いていました。多くの生徒から、「学校再開を楽しみにしています」「部活動をはやくしたいです」「もう休みはいりません」という声を聴き、1日も早く学校が再開できるよう準備を行ってきました。そして、本日より、各学年を午前・午後に分けた分散登校が始まりました。2週間この状態を続け、15日からにつきましては、今後分かり次第連絡させていただきます。それに伴い、1学期に予定していました、体育祭、修学旅行は現時点では、延期いたします、また学校総合体育大会の中止が決まり、三年生にとって最後の大会ができないままの引退となりました。現在、これに代わるものを実施し、部活動を終わらせたいと思っています。まだまだ心配な状況は続きます、一人ひとりがしっかりと生活していきましょう。何かご心配なことがありましたら、学校へ遠慮なくお問い合わせください。

さて、イソップ物語に「ロバを売る親子」というお話があります。あらすじをお話します。

昔、ある親子がロバを売りに町に出かけました。親子はロバに手縄をつけて引いて歩いていました。その様子を見た通りがかりの人に「せっかくロバを連れているのだから乗ればいいのに」と言われたので、子どもをロバに乗せて歩いていきました。しばらく歩くと今度は別の人が、「親を歩かせるなんて親不孝な子どもだ」と言うので、子どもを降ろして親がロバに乗って歩いていきました。また、しばらく歩くとまた別の人から、「子どもを歩かせて親だけ乗るなんて、なんてひどい親だ。一緒に乗ればいいのに」と言われたので、今度は二人でロバに乗っていきました。さらに行くと、また別の人が「小さなロバに二人乗るなんてかわいそう」と言うので、それもそうだと思い、親子は、ロバを狩りの獲物を運ぶように一本の棒に両足をくくりつけて、担いで歩きました。やっと町に近づき、橋を渡ろうとしたところ、担がれたロバが苦しがりて暴れ出し、川に落ちて死んでしまいました。結局親子は、苦勞しただけで一文の利益も得られませんでした。さて、みなさんこの親子をどう思いますか。この親子はロバを売るために町へ歩いていく間に、五つの方法でロバを運びます。やさしい親子だと思えますが、残念なことに、自分の頭で考えずに、人に言われるがままに次々と方法を換えていきます。その結果、ロバは川に落ちてしまい、ロバを売るという目的は達成できませんでした。みなさんも目的を決めて、それを実行していく間に、たくさんの判断に迫られることがあります。困ったら、人の話に耳を傾けることは大事な事ですがその時、しっかりと自分の頭で考えて判断しなくてははいけません。成功するには「チャンス」に恵まれるだけでなく、正しい「チョイス」、つまり「選択をする」ことがとても大事です。このような時こそ、自ら選択し、自ら判断し、自ら決断し、自ら行動しましょう。学校目標「自ら輝け 夢をつかめ」のように。